

人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和3年6月

福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座 小林智之

【研究課題名】

集団相互依存観と共通集団観による地域間協調の促進効果の検証：
効果的な地域復興対策の検討

【研究期間】

2018年6月（承認後）から 2022年3月

【研究の意義・目的】

本研究では、多様な地域性を持った住民間の協調が促される方法を検討することを目的とし、保健師等の地域活動に関わる人々を対象に、住民間の協調に関するワークショップとアンケートを実施します。

福島県では、各地域において安定した地域性が形成されてきましたが、東日本大震災の影響により、多くの人々が住み慣れた地域を離れ、他の地域へと避難されました。そのため、現在では1つの生活圏の中で、多様な地域性を持った人々が一緒に生活している状況にあります(1)。しかし、もともとの地域性が異なるため、コミュニケーションにしばしば食い違いや拒絶が見られることがあります(2)。実際、福島県内でも、東日本大震災に係る避難において、避難者の中傷した落書きや仮設住宅における嫌がらせなどが問題視されました(3, 4)。また、異なる地域性によって自身の生活圏の中で他者との交流で食い違いや拒絶を経験していると、外界との接触に消極的になり住民同士の協力関係や個人の健康が悪化する可能性も懸念されます(5, 6)。

このような問題を踏まえ、災害に伴う避難状況における住民間の協調が促されることを目指して、本研究では、保健師等の地域活動に関わる人々を対象にワークショップを実施し、住民間の協調が促される方法について検証することといたしました。具体的には、社会心理学の領域において効果が示唆されている集団相互依存観アプローチと共通集団観アプローチという2つの方法について検証いたします。

集団相互依存観アプローチとは、地域間の連携の重要性に焦点を当てたアプローチです(7)。他地域の人々との関係では、その地域の人々を制限された土地や資源を奪い合う競争相手(8)や自分の地域性に破壊的な変化をもたらさう脅威(9)として認識された場合に激しい差別や拒絶が促されると言われますが、自分たちの地域の発展のために互いに依存し合った相手として認識された場合にはむしろ強固な連携を維持するために友好的な交流が動機づけられることが言われています(7)。

一方、共通集団観アプローチとは、地域間の統一感や一体感に焦点を当てたアプローチです(10)。他地域との区別をなくし統一感や一体感を促すことで、個々人の他地域に対する協調が促される可能性が考えられます。

保健師等の住民に寄り添った活動をしている人々は、住民の健康状態や住民間の交流の様子などに精通しており、日々の業務として実際に住民と対面する機会もたくさんお

持ちです。そのため、本研究で2つのアプローチ方法の効果を検証することは、地域保健活動において地域づくりを促進するより効果的な対策立案につながると考えられます。

【研究の対象となる方】

本研究に係るワークショップとアンケートは出前講座と連携して実施されます。当該の出前講座に参加した地域保健事業に関わる保健師等の方が対象となります。

【研究の方法】

多様な地域性を持つ住民間の協調を促すことを目指した適切なアプローチ方法を検討するため、本研究では、保健師等の地域活動に関わる人々を対象にワークショップおよびアンケートを実施いたします。

本研究に係るワークショップおよびアンケートは出前講座と連携して実施します。当該の出前講座は、地域保健に従事する保健師等を対象に、福島県内外の保健福祉事務所等で開催される約2時間の研修会です。本研究に係るワークショップは研修会の後に実施され、Microsoft PowerPointで作成したスライドを提示し、福島県における地域性に関する問題提起や仮想の町を用いたストーリーを用いた手法を取ります。

アンケートはワークショップ実施時とその後のフォローアップで実施いたします。実施時のアンケートでは、年齢と性別の他、ワークショップで紹介するストーリーの住民の気持ちに関する項目、ワークショップの内容の確認や評価に関する項目、また、ワークショップの内容に関連した経験についての自由記述に、それぞれご回答いただきます。フォローアップ時のアンケートは、ワークショップの開催から約1か月後に、ワークショップが開催された保健福祉事務所等の代表者にアンケート用紙が郵送され、各参加者に配布される。アンケートの回収は、同封された返信用封筒等で行われる。年齢と性別の他、他地域から来た人々に対する住民たちの振る舞い方に関する項目、異なる地域性の住民が仲良くする方法についての自由記述、普段の業務の中で地域性に関して疑問の自由記述に、それぞれご回答いただきます。

データの解析は、福島県立医科大学が実施する。なお、アンケートには個人情報は含まれず、得られた結果は、福島県立医科大学のみで結果を考察し、議論します。

1. 川副早央里, 原発避難者の受け入れをめぐる状況——いわき市の事例から——. 環境と公害. 42 (2013), pp. 37-41.
2. N. Ellemers, The group self. *Science*. 336 (2012), pp. 848-852.
3. 被災者中傷する落書き——いわきの公共施設 市が被害届——. 福島民報 (2012), p. 23.
4. 避難者の車破損——いわき仮設住宅4ヶ所——. 福島民報 (2013), p. 31.
5. J. Cilliers, O. Dube, B. Siddiqi, Reconciling after civil conflict increases social capital but decreases individual well-being. *Science*. 352 (2016), pp. 787-794.
6. E. Yoon *et al.*, A meta-analysis of acculturation/enculturation and mental health. *J. Couns. Psychol.* 60 (2013), pp. 15-30.
7. 小林智之, 及川昌典, メタステレオタイプと集団相互依存観が外集団に対する反応に及ぼす影響. 心理学研究. 86 (2015), pp. 467-473.
8. M. Sherif, O. J. Harvey, B. J. White, W. Hood, C. Sherif, *Intergroup conflict and cooperation: The robbers cave experiment* (Norman, Okla), vol. 10.

9. S. L. Neuberg *et al.*, Religion and intergroup conflict: findings from the Global Group Relations Project. *Psychol. Sci.* 25 (2014), pp. 198–206.
10. S. L. Gaertner, J. F. Dovidio, Understanding and Addressing Contemporary Racism: From Aversive Racism to the Common Ingroup Identity Model. *J. Soc. Issues.* 61 (2005), pp. 615–639.

【研究組織】

研究責任者

(所属) 福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座
(職) 助教 (氏名) 小林智之

分担研究者

福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 村上道夫
福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 竹林由武
福島県立医科大学総合科学教育研究センター 吉田和樹
福島県立医科大学災害公衆衛生看護学講座 末永カツ子
福島県立医科大学総合科学教育研究センター 後藤あや
福島県立医科大学付属病院性差医療センター 小宮ひろみ
量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門 高度被ばく医療センター 被ばく医療部 熊谷教史
福島県保健福祉部健康増進課 前田香
福島県保健福祉部健康増進課 菊地とも子

【他の機関等への試料等の提供について】

他機関等への資料等の提供はございません。

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

また、本研究はワークショップへの参加やアンケートへの回答を持って同意とみなします。いったん研究参加に同意した後でも特段の不利益を受けることなく同意撤回できますが、アンケートは無記名であるため、アンケートの回収後には取り下げができません。

○研究内容に関する問い合わせの窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1
公立大学法人福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座
担当 小林智之
電話: 024-547-1887 FAX: 024-547-1892
E-mail: tomokoba@fmu.ac.jp

